

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成16年12月9日(2004.12.9)

【公表番号】特表2000-512381(P2000-512381A)

【公表日】平成12年9月19日(2000.9.19)

【出願番号】特願平9-541636

【国際特許分類第7版】

G 0 1 N 33/68

G 0 1 N 33/49

【F I】

G 0 1 N 33/68

G 0 1 N 33/49 H

【手続補正書】

【提出日】平成16年4月7日(2004.4.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

### 手続補正書

平成16年4月 7 日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成9年特許願第541636号

2. 補正をする者

名称 ロシュ ダイアグノスティックス ゲーエムベーパー

3. 代理人

住所 東京都港区虎ノ門1丁目17番1号  
虎ノ門5森ビル3階

電話番号 03 (3503) 8637

氏名 (9109) 弁理士 平木 祐輔



4. 補正対象書類名

請求の範囲

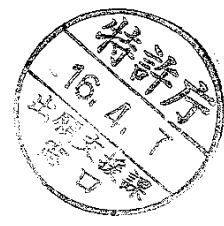
5. 補正対象項目名

請求の範囲

6. 補正の内容

請求の範囲を別紙のとおり補正します。

方 式 審 査



(別紙)

## 請求の範囲

1. 少なくとも2つの波長における光学的測定を用いて、遊離ヘモグロビンを含有するサンプル中のアルブミンをアッセイする方法であって、
  - (a) 第1測定波長において、測定にとって十分強いアルブミン測定シグナルが存在すること、
  - (b) 第2測定波長において、(i)アルブミン測定シグナルが全く存在しないか、もしくは(ii)該第1測定波長における測定シグナルより小さいアルブミン測定シグナルが存在すること、そして
  - (c) 該第1測定波長および該第2測定波長において、ヘモグロビンと、アルブミンをアッセイするのに用いられるアッセイ試薬との反応により生じ、かつ時間と共に変化する、比較的強い妨害シグナルが存在すること、を特徴とする前記方法。
2. 前記アッセイが一点測定にて行われることを特徴とする、請求項1に記載の方法。
3. 前記アッセイが二点測定または多重点測定にて行われることを特徴とする、請求項1に記載の方法。
4. 前記アルブミンアッセイがコハク酸緩衝液中でのプロモクレゾールグリーン法を用いて行われることを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の方法。
5. 前記アッセイが、
  - (a) 560～580nmの第1測定波長および540～552nmの第2測定波長、
  - (b) 640～680nmの第1測定波長および470～490nmの第2測定波長、または
  - (c) 620～640nmの第1測定波長および590～610nmの第2測定波長、において行われることを特徴とする、請求項4に記載の方法。
6. 前記アルブミンアッセイがクエン酸緩衝液中でのプロモクレゾールグリーン

ン法を用いて行われることを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の方法。

7. 前記アッセイが560～580nmの第1測定波長および490～520nmの第2測定波長において行われることを特徴とする、請求項6に記載の方法。
8. 前記アルブミンアッセイがプロモクレゾールパープル法を用いて行われることを特徴とする、請求項1～3のいずれか1項に記載の方法。
9. 前記アッセイが、(a) 560～580nmの第1測定波長および490～520nmの第2測定波長、または(b) 560～580nmの第1測定波長および540～552nmの第2測定波長にて行われることを特徴とする、請求項8に記載の方法。